

News Release

News Release

平成 22 年 7 月 6 日

日本 C C S 調査株式会社

苫小牧地点での追加 3 次元弾性波探査の実施について

当社は、地球温暖化対策として期待される革新的技術である二酸化炭素（以下：CO₂）排出の大規模削減を目的とした CO₂ の回収・貯留（C C S）の大規模実証試験の候補地選定のための調査作業を、経済産業省の委託により日本各地で実施しております。

苫小牧地点においては、昨年 10 月から 11 月の間、3 次元弾性波探査を実施し、想定貯留地点近傍の調査を行い、有望である可能性が高まりましたが、実証試験地選定のためには、さらに調査範囲を追加して詳細な地質データを取得する必要性が生じたことから、昨年の調査範囲の周辺海域においてより広範囲での地質データを取得するため、追加 3 次元弾性波探査を地元のご理解とご協力を戴きながら下記の通り実施いたしますのでお知らせいたします。

なお実証試験地については、昨年度の 3 次元弾性波探査、今回の追加 3 次元弾性波探査、ならびに本年 10 月に予定されている調査井によって取得される地質・物性データ等を総合的に評価し、経済産業省において選定される予定です。

【苫小牧地点 追加 3 次元弾性波探査の概要】

- | | |
|-------|--|
| 1 目 的 | 遮蔽層（泥岩）と貯留層（砂岩、火山岩類）の広がりを把握し、その地質データを取得すること。 |
| 2 場 所 | 苫小牧港約 2 km の沖合で東西約 5 km × 南北約 6 km の海域 |
| 3 期 間 | 平成 22 年 7 月中旬～9 月中旬を予定 |
| 4 方 法 | エアガンにより弾性波を発生させ、地層境界からの反射波を記録する。 |

(注) C C S : Carbon dioxide Capture and Storage

二酸化炭素を分離・回収し、地中に貯留する技術

以 上

【添付資料】

苫小牧地点 C C S 実証試験地選定のための追加 3 次元弾性波探査の実施について

苫小牧地点CCS実証試験地選定のための追加3次元弾性波探査の実施について

平成22年7月
日本CCS調査(株)

I. 苫小牧地点における地質調査について

深刻化する地球温暖化への有効な対策のひとつとして、二酸化炭素回収・貯留（CCS）が注目されています。そして、その実用化のため早期に実証試験が必要となっています。

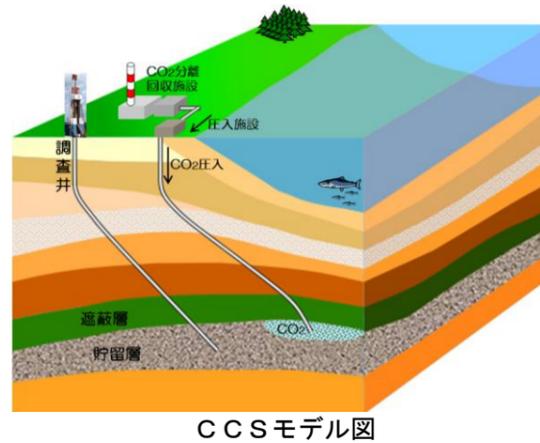
弊社は、この実証試験地選定のための調査を経済産業省の委託事業を通じて実施してまいりました。

苫小牧沖地区は、構造性および非構造性帯水層を対象とした実証試験の有力候補地の1つとされております。

本地区は周辺の長年にわたる石油・天然ガス開発の探査作業を通じて、地下の地質構造形態が把握されており、二酸化炭素を貯留できる帯水層（海底面下約1,100m～約3,000m付近）の存在が確認されております。

実証試験において、二酸化炭素を長期に安定して地層に貯留するためには詳細な地質データを取得する必要があります。2009年10月から11月には3次元弾性波探査を実施し、想定貯留地点近傍の調査を行い、有望である可能性が高まりましたが、実証試験地選定のためには、さらに調査範囲を追加して詳細な地質データを取得する必要が生じました。今回行う調査は、昨年の調査範囲の周辺海域において遮蔽層（泥岩）と貯留層（砂岩、凝灰岩等）の広がりを把握し、より広範囲の地質データを取得するための追加の地質調査です。

実証試験地については、昨年度実施済みの3次元弾性波探査、今回の追加3次元弾性波探査、ならびに本年10月に予定されている調査井によって取得される地質・物性データ等を総合的に評価し、経済産業省において選定される予定です。



CCSモデル図



【調査位置図】

II. 苫小牧沖での追加3次元弾性波探査の実施について（経済産業省の委託事業の一環として実施）

昨年実施した3次元弾性波探査に続く調査として、次のとおり周辺海域において追加の3次元弾性波探査を実施し、実証試験地選定のための調査を行いたいと考えております。

何卒、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(1) 調査範囲

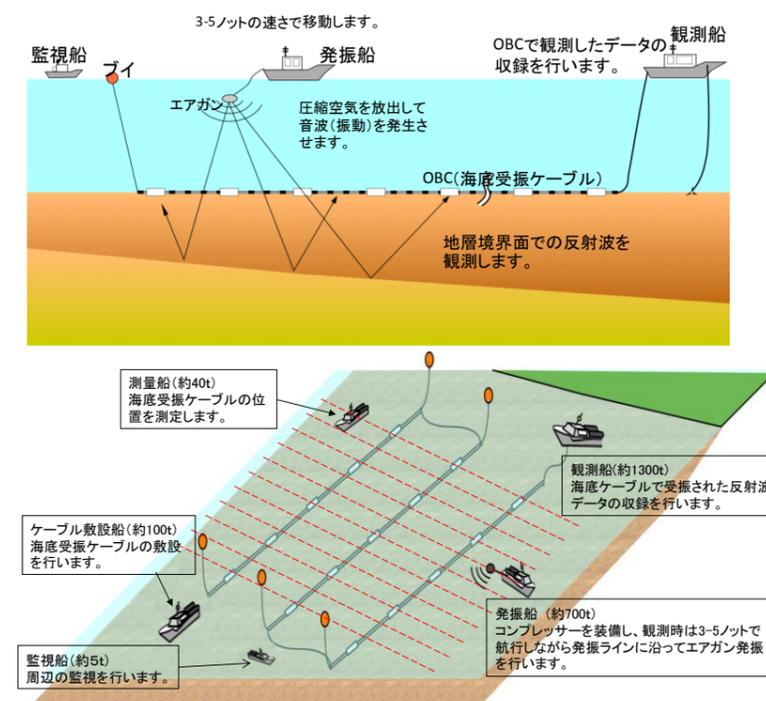
苫小牧港約2km沖合の東西約5km、南北約6kmの海域を予定しております。なお、追加調査範囲は、調査海域状況により多少変更する可能性があります。

※今回実施する追加3次元弾性波探査海域は、左下「調査位置図」中、赤枠で表示。

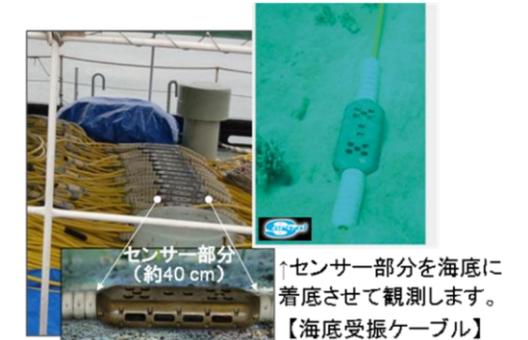
昨年に実施した3次元弾性波探査海域は、左下「調査位置図」中、緑枠で表示。

(2) 調査内容

昨年と同様に、海底に2本または3本の長さ3kmのデータ受振ケーブルを並行に設置し、その周辺においてエアガンにより弾性波を発生し、地層境界からの反射波データを海底に敷設した受振ケーブルで取得いたします。なお、具体的な調査方法等については、漁協関係者、地元関係先の皆様方に十分にご説明をさせて頂いた上で調査を開始させていただきます。



【調査概念図】



↑センサー部分を海底に着底させて観測します。
【海底受振ケーブル】



【エアガン発振風景(昨年度調査)】

(3) 調査時期

2010年7月中旬～9月中旬の2か月程度

(4) 調査スケジュール

2010年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査海域状況確認	★								
追加3次元弾性波探査	■								
(参考)調査井掘削		敷地造成		リグ搬入		調査井掘削工事			リグ搬出
※調査スケジュールは天候等により変更することがあります。									